

# 古代出雲王陵の丘(安来市)

造山公園

「古代出雲 王陵の丘」と記された大きな看板が立っている



安来市のJR荒島駅周辺には、弥生時代から古墳時代にかけての墳墓が集中している

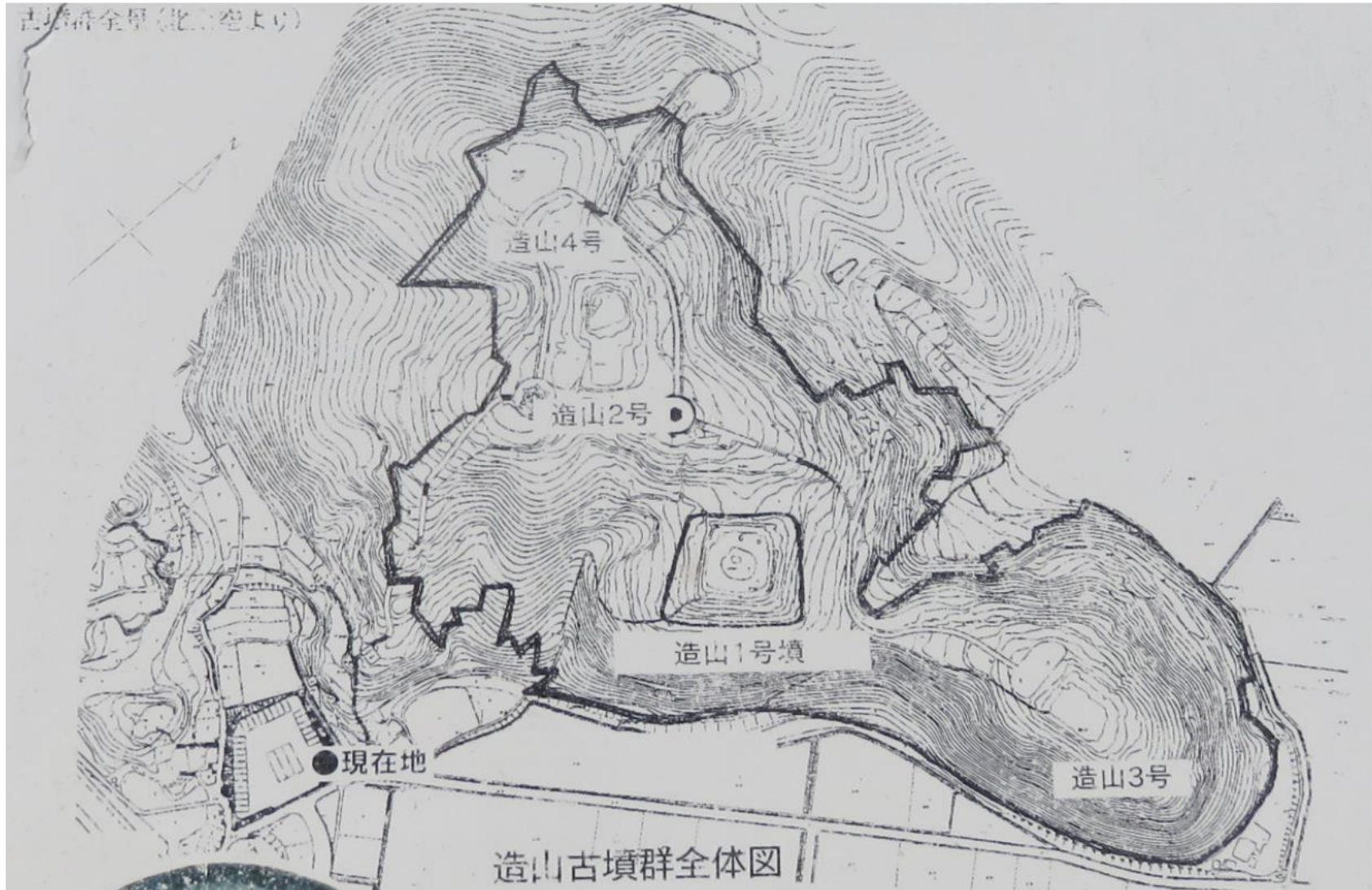


造山・塩津山・宮山・仲仙寺墳墓群の4ヶ所は公園として整備されており、総称して、「古代出雲 王陵の丘」と呼ばれている





造山墳墓群には方墳や前方後方墳など4基の古墳が所在する



造山1号墳・3号墳はいずれも古墳時代前期4世紀頃の築造とされ、2号墳・4号墳は6世紀前半頃の築造と推定される



さまざまな説明板が並ぶ



この「古代出雲王陵の丘」には、国指定史跡・県指定史跡となっている古墳が点在しています。ここには古代出雲を治めた歴代の首長が葬られています。


日本では4世紀から7世紀にかけて、各地の首長が競って大きな古墳を築きました。この時代を古墳時代と呼んでいます。

荒島の地には、弥生時代の終りごろから古墳時代にかけて、四隅が突き出た、全国的にもめずらしい形の墳墓（国指定史跡仲仙寺古墳群・県指定史跡塩津方墳）が分布しています。また4世紀に築かれた竪穴式石室の古墳（国指定史跡造山1号墳・県指定史跡造山3号墳・大成古墳）が至近距離にあります。これらの古墳はそのころの各地域の最も高い地位にあった首長のみが築くことができたものです。このような山陰地方で、最も古い時期の古墳が3基も隣接している例は、他にありません。

このことから、この地域が古代出雲で最も輝いていたことを示す証といえます。これにちなんで「古代出雲王陵の丘」と命名しました。

薄紫の島根半島、波静かな中海を望むこの丘に立ち、古代出雲に思いをはせていただければ幸いです。

この「古代出雲王陵の丘」は、リーディングプロジェクト神話と鉄学の道事業に関連し、自治省のふるさとづくり特別対策事業の指定を受け、郷土に誇りと愛着のもてる地域づくりを目指し整備しました。



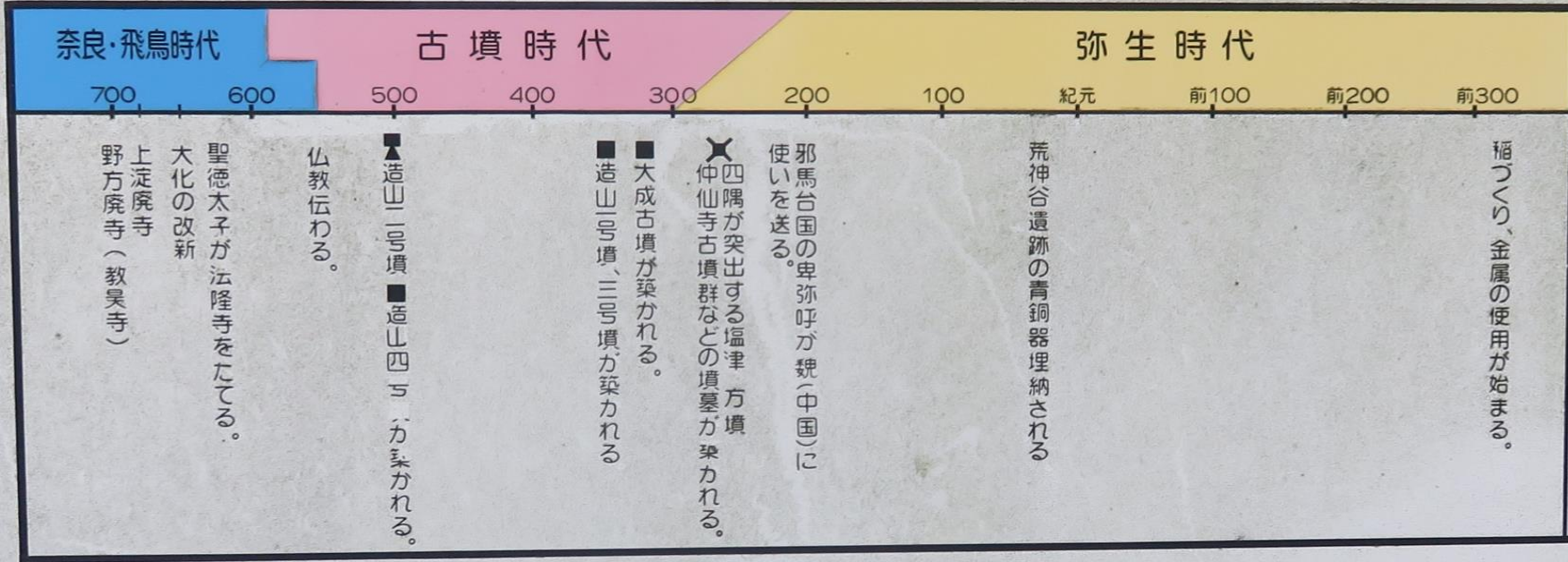
平成5年3月安来市教育委員会



- 国指定史跡
- 県指定史跡
- 市指定史跡
- 前方後方墳
- 前方後方墳
- 四隅突出形墓



歴史のあゆみ



造山1~4号墳の配置図





## 「かなな流し」観察コーナー

この観察コーナーは、平成十二年十月、ト蔵孫三郎顕彰碑建立を記念して、古代出雲王陵の丘登り口の斜面沿いに開設されました。

かなな（鉄穴）流しは、たたら製鉄に必要な砂鉄を採取するために山砂を切りくずして水路に流し、比重差によって砂と砂鉄とに選り分ける方法です。かなな流しは多量の土砂を川に流すので、灌漑用水が使われる期間を除き、秋の彼岸から春の彼岸までの間だけ許可されていました。

仁多郡の鉄師・ト蔵家に生まれ育った孫三郎は、砂鉄を採取するためのかなな流しを、高清水の水源から水を引いて日白池を埋め立てるための方法として巧みに生かしました。

眼下にト蔵新田（もとは日白池）を見わたせるこの場所で、昔に思いを馳せながら「かなな流し」観察をお楽しみください。

ふるさと賛歌

古代出雲王陵の丘

作詞作曲 田部 由美子

一、やわらかな風に 光やさしく  
いにしへの想い 悠久の時  
春には桜が咲き競い

\* ツツジも笑顔も咲き誇る  
ああ王陵の丘 美しふるさと  
ああ王陵の丘 わが心のふるさと

二、海よりの風に 新緑薫る  
碧き大空に 国引きの山  
夏来たる丘を訪ねれば  
古代の息吹に包まれる

\* ああ王陵の丘 優しきふるさと  
ああ王陵の丘 わが心のふるさと  
三、紅染まる丘に 京羅木の山  
いつもいつの日も 守ってくねる  
秋の夕暮れに耳澄まし  
愛しいあなたと語り合う

\* ああ王陵の丘 愛しきふるさと  
ああ王陵の丘 わが心のふるさと

四、梅林の花に 立つ出雲富士  
静けさの中に 命をつなぐ  
冬の訪れに身をまかせ  
春の雪解けを待っている  
\* ああ王陵の丘 みんなのふるさと  
ああ王陵の丘 わが心のふるさと

さて、ここから丘陵を登る



前方の頂部に2号墳・4号墳が、右手の方に1号墳・3号墳が所在する





これはその右手に回り込んだところ



この右手の木々の中に1号墳が所在するようだ



正面に1号墳があるのだが、この状態では中に踏み込めない/古墳時代前期4世紀頃の100年間において全国で一番大きい方墳と云う/一辺が60m、高さ10mで谷側は2段になっているらしい/墳丘に葺石を持ち、主体部は竪穴式石室



さて、ここは頂部で、前方に2号墳が見えてくる



これが2号墳/6世紀前半頃築造の前方後方墳/左手前が前方部、右奥が後方部 ([クリックしてビデオを見る](#))



前方部側から反対側に行ってみる



ここからは中海をはじめ、遠くには島根半島も一望でき、雄大な眺望が広がっている

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



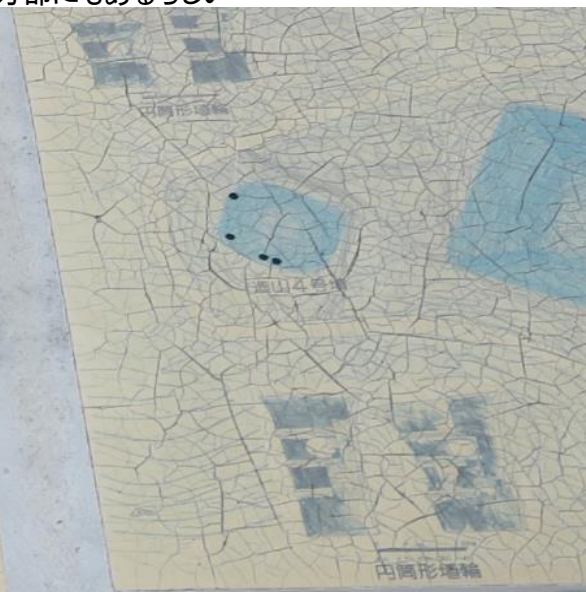
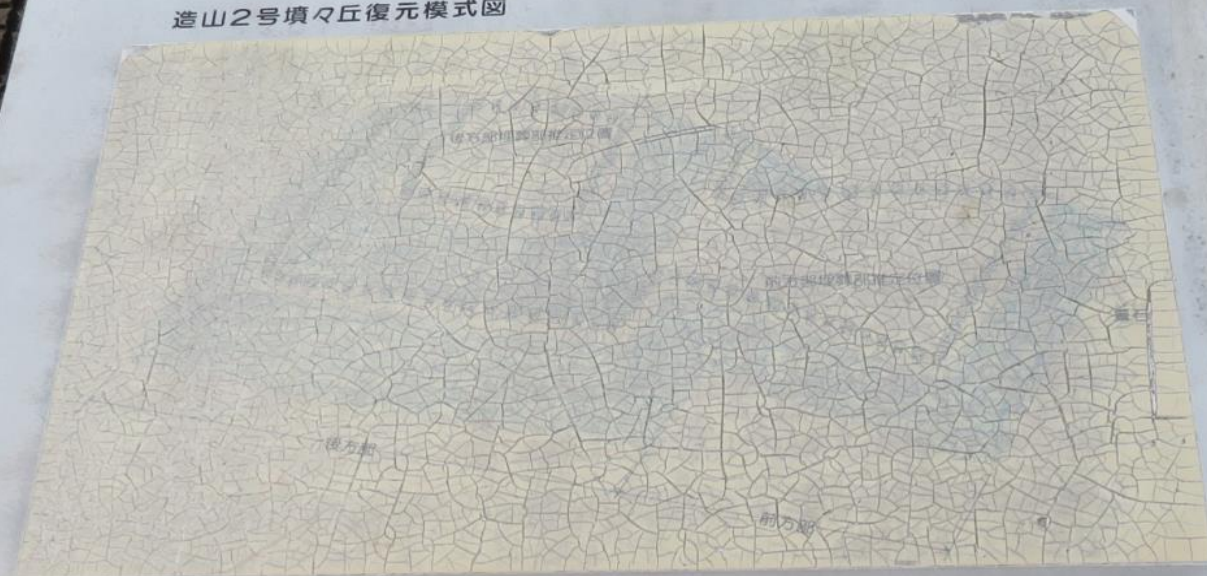
振り返って見たところ/右手前が前方部、左奥が後方部 [\(クリックしてビデオを見る\)](#)





古墳全体に葺石が施されていたと云う/埋葬施設は後方部だけでなく、前方部にもあるらしい

造山2号墳々丘復元模式図



### 造山2号墳

造山2号墳は、全長約50mの前方後方墳です。

古墳全体に、葺石が施されています。葺石は屋根瓦を竝くように敷きつめることからその名があり、盛土の流失防止とともに古墳の外観を壮厳にみせる効果があります。

この古墳には、埴輪も並べられていました。

1991年の調査で、前方部と後方部のくびれのあたりから須恵器（黒て焼かれた硬質で、灰色の土器）土師器（赤

褐色の軟質の土器）、さらに多くの円筒形埴輪の破片が見つかりました。

これらの土器や埴輪の特徴から、造山2号墳が築かれたのは6世紀の初めごろと考えられます。埋葬施設については未調査のため不明ですが、前方部の中央に埋葬施設の一部と見られる石材がありました。このことから埋葬施設は後方部だけではなく、前方部にもあったものと考えられます。

墳丘に登って前方部から後方部を見たところ



そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ



これは後方部の背面から後方部の墳丘を見たところ



これは後方部の墳頂から前方部方向を見たところ



同じく右サイドで見たところ/前方部と後方部の取り付け部分の様子が見て取れる



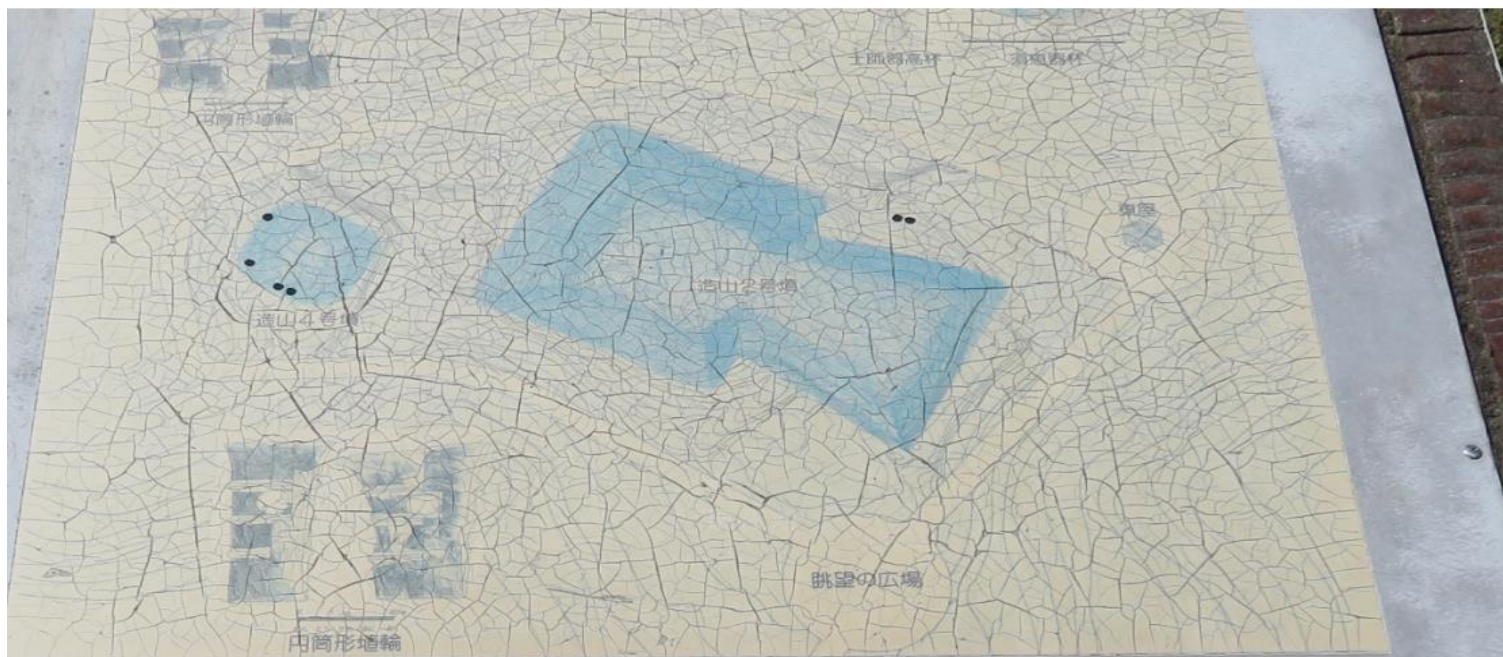
振り返って後方部の背後を見ると4号墳が見える





これが4号墳/6世紀前半頃築造の方墳





### 造山4号墳

円筒形埴輪の破片が見

造山2号墳が築かれた  
。埋葬施設について  
中央に埋葬施設の一  
ことから埋葬施設は

造山4号墳は、造山2号墳の東約13mの位置に築かれた  
一辺約13mの方墳と考えられます。

裾部には、円筒形埴輪が1m間隔で飾りたてられていまし  
た。

埴輪は2号墳のものとよく似ており、築かれた時期は6世紀  
の初めごろと考えられます。

さて、次は3号墳へいってみよう



前方に墳丘が見えてくる



これが3号墳/古墳時代前期4世紀頃の築造の方墳



## 竪穴式石室には割竹形木棺が納められていたと云う



墳丘に登ってみよう



ここが墳頂





これは先程の説明板を見下ろしたところ



# 塩津山公園

さて、次は塩津山墳墓群



ここから登っていく



説明板はだいぶ劣化して、文字がぼやけてきている

国指定史跡

塩津山墳墓群

(指定名称荒島古墳群)  
(安来市荒島町・久白町)

荒島古墳群は弥生時代後期後半から古墳時代前期(紀元2〜4世紀)を中心とした墳墓群であり、東の塩津山墳墓群、北の大成古墳、西の造山古墳群の三つの支群に分かれている。

塩津山墳墓群は弥生時代の墳墓2基と古墳9基からなり、三つの支群の中では最も古い墳墓群である。1号墳は25m×20mの方墳で古墳時代前期につくられたものだが、墳丘の形や外表施設である貼石の特徴は弥生時代の四隅突出型墳丘墓の特徴を色濃く残している。埋葬施設は6基確認されている。中心の埋葬施設(第1主体)である竪穴式石室は調査されていないが、隣接する第3主体は木棺を砂礫によっておおう構造のもので、やはり当時当地の弥生時代の伝統を引き継ぐものである。また、第6主体は器台と呼ばれる土器を棺に転用したもので、用いられた土器は吉備地方の祭祀用の土器の影響が認められ、同地域の首長との交流が窺える。

6・10号墓は弥生時代の四隅突出型墳丘墓で、突出部を含めた長さで40m近い大きさを測り、県内では最大クラスである。また、同墳墓群の西側にはこれらの墳墓群とほぼ同時期に営まれた大規模な集落(柳遺跡・竹ヶ崎遺跡)があり、当地が当時の出雲東部において集落と墳墓が一体となった拠点地域であったことがうかがえる。

塩津山墳墓群を含めた荒島墳墓群では弥生時代から古墳時代への移行期にかけての出雲東部地域の最高首長の墓が継続して営まれている。こうした事例は全国的にみてもほとんど例がなく、当古墳群は出雲のみならず日本列島の古墳時代の成立を考える上で極めて重要な古墳群である。

昭和11年(1936)12月16日指定名称  
平成11年(1999)7月13日追加指定・名称変更  
平成13年(2001)3月

島根県教育委員会  
安来市教育委員会



1号墳全景

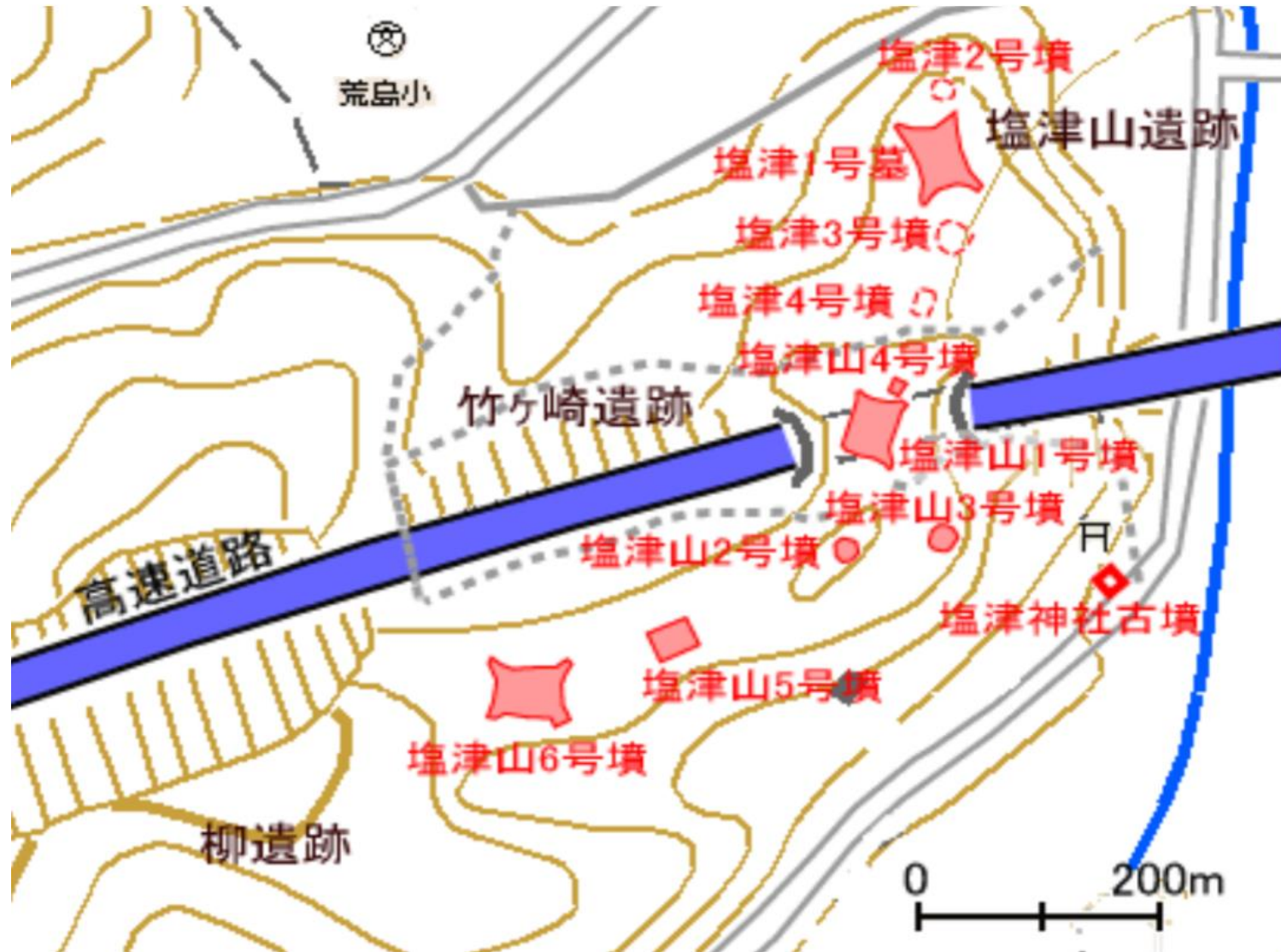


1号墳第3主体



1号墳第6主体(器台)

塩津山墳墓群は弥生時代の墳墓2基(ここでは塩津1号墓、塩津山6号墳と記されている)と古墳9基からなるらしい/塩津山1号墳は古墳時代前期に築造された方墳だが、墳丘の形や外装施設である貼石の特徴は弥生時代の四隅突出型墳丘墓の特徴を色濃く残していると云う



前方に墳丘が見えてくる



正面が1号墳/左手の説明板の所が4号墳



1号墳に続いて築造された/墳丘は既に失われているらしい

## 4号墳

1号墳に続いて古墳時代前期に造られた古墳です。墳丘が流失したため、古墳の形や規模は不明ですが、規則正しく並んだ埋葬施設が3基見つかりました。それぞれの埋葬施設は、遺体を安置した棺の形も、棺を置くためのしつらえも異なりますが、川砂や板状の石、河原石を用いて丁寧に埋葬を行っていました。



発掘調査時の南東隅の様子（上空から）



これが1号墳/古墳時代前期に築造された方墳/貼石が見える



## 貼石は弥生時代の四隅突出型墳丘墓の特徴と云う

### 1号墳 貼石

1号墳は平野側から見栄えがする北側と東側の斜面に、だけ石が貼られています。北東隅の近くでは裾と斜面に大きい平らな石を貼り付けています。裾部分と斜面の部分に大きい板石を貼り付けています。このような石の使い方は「貼石」といって、弥生時代出雲の王墓として造られた四隅突出型墳丘墓で見られるものです。



四隅の貼石



塩津山1号墳の貼石



古墳の茸石

貼石・墓石模式図



発掘調査時の貼石の様子（西から）



発掘調査時の貼石の様子（北から）

こんな塩梅



ここが墳頂/出土した土器などのレプリカが置かれている



墳墓群の所在する丘陵の真下を高速道路が貫通している



塩津山墳墓群には県内最大級の2基の四隅突出型墳丘墓が所在するが、出雲市の西谷墳墓群にも大型のものがあり、弥生時代後期には出雲地方の東西に2大勢力があったと考えられると云う

しおつやま

## 国指定史跡 塩津山1号墳


弥生時代の終わり頃、倭国では戦乱がくり返されていました。各地に小国家が分立して異なる文化圏を形成し、王のお墓や儀式も地域ごとに変化に富んでいました。

このような群雄割拠の時代に出雲東部のリーダーであった荒島の王は、出雲西部、伯耆、因幡、そして遠くは北陸地方まで日本海側の王達と、四隅突出型墳丘墓と呼ばれる独特の形のお墓をシンボルとして深いつながりを持っていたと考えられています。

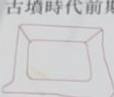

古墳時代に入ると、争っていた国々はヤマト政権を中心に東北部から九州まで全国的な規模でまとまります。このことは、現在の日本国の原型が初めて出来た画期的な出来事でした。

そこでは前方後円墳を代表とする共通の約束事に従ってお墓（古墳）を造り、そこで共通の儀式が行われました。

弥生時代後期



古墳時代前期

四隅突出型墳丘墓  
(塩津山1号墓  
仲前寺9号墓等)

塩津山1号墳


方墳  
(大成古墳  
造山1号墳等)

荒島の豪族は、新たなる時代の幕開けを出雲地域の盟主として迎え、中海を見下ろす丘陵に大成古墳や造山1号墳など全国最大級の方墳を相次いで築きました。


このような時代に築かれた塩津山1号墳は、南北25m、東西20m、高さ3mの中規模の古墳ですが、中心となる埋葬施設に竪穴式石室を採用するなど全国的に共通の約束事にもとづいて築かれる反面、外側の石の積み方や埋葬での砂の使用など弥生時代の王墓の特徴が併せて見られる全国的に貴重な古墳です。

現在、見られる墳丘は発掘調査の成果をもとに築造当時の姿に復元したもので、本物の古墳はこの下に保存されています。


2001年3月  
安来市教育委員会



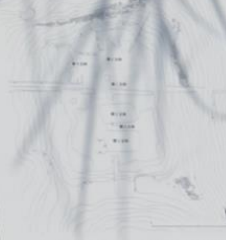
塩津山1号墳（上空から）



塩津山1号墳と安来千野



調査中の塩津山1号墳（北から）



塩津山1号墳調査後地形測量図

## 国指定史跡

# 塩津山1号墳

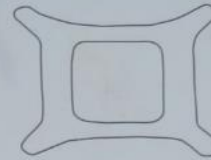
弥生時代の終わり頃、倭国では戦乱がくり返されていました。各地に小国家が分立して異なる文化圏を形成し、王のお墓や儀式も地域ごとに変化に富んでいました。

このような群雄割拠の時代に出雲東部のリーダーであった荒島の王は、出雲西部、伯耆、因幡、そして遠くは北陸地方まで日本海側の王達と、四隅突出型墳丘墓と呼ばれる独特の形のお墓をシンボルとして深いつながりを持っていたと考えられています。

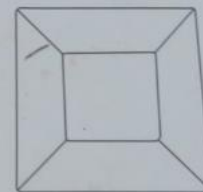
古墳時代に入ると、争っていた国々はヤマト政権を中心に東北南部から九州まで全国的な規模でまとまります。このことは、現在の日本国の原型が初めて出来た画期的な出来事でした。

そこでは前方後円墳を代表とする共通の約束事に従ってお墓（古墳）を造り、そこで共通の儀式が行われました。

弥生時代後期



古墳時代前期



よ すみ としゆつがたふんきゆうぼ  
四隅突出型墳丘墓

(塩津山10号墓)  
(仲仙寺9号墓等)

塩津山1号墳

ほうふん  
方墳

(大成古墳)  
(造山1号墳等)

荒島<sup>あらしま</sup>の豪族は、新たなる時代の幕開けを  
出雲地域の盟主として迎え、中海を見下ろ  
す丘陵<sup>おおなりこふん</sup>に大成古墳<sup>つくりやま</sup>や造山1号墳など全国最  
大級の方墳<sup>ほうふん</sup>を相次いで築きました。

このような時代に築かれた塩津山1号墳  
は、南北25m、東西20m、高さ3mの  
中規模の古墳ですが、中心となる埋葬施設<sup>まいそうしせつ</sup>  
に竪穴式石室<sup>たてあなしきせきしつ</sup>を採用するなど全国的に共通  
の約束事にもとづいて築かれる反面、外側  
の石の積み方や埋葬での砂の使用など弥生  
時代の王墓<sup>おうぼ</sup>の特徴が併せて見られる全国的  
に貴重な古墳です。

現在、見られる墳丘<sup>ふんきゆう</sup>は発掘調査の成果を  
もとに築造<sup>ちくぞう</sup>当時の姿に復元したもので、本  
物の古墳はこの下に保存されています。

2001年3月  
安来市教育委員会



現在の墳丘は復元で、実物は埋め戻されている



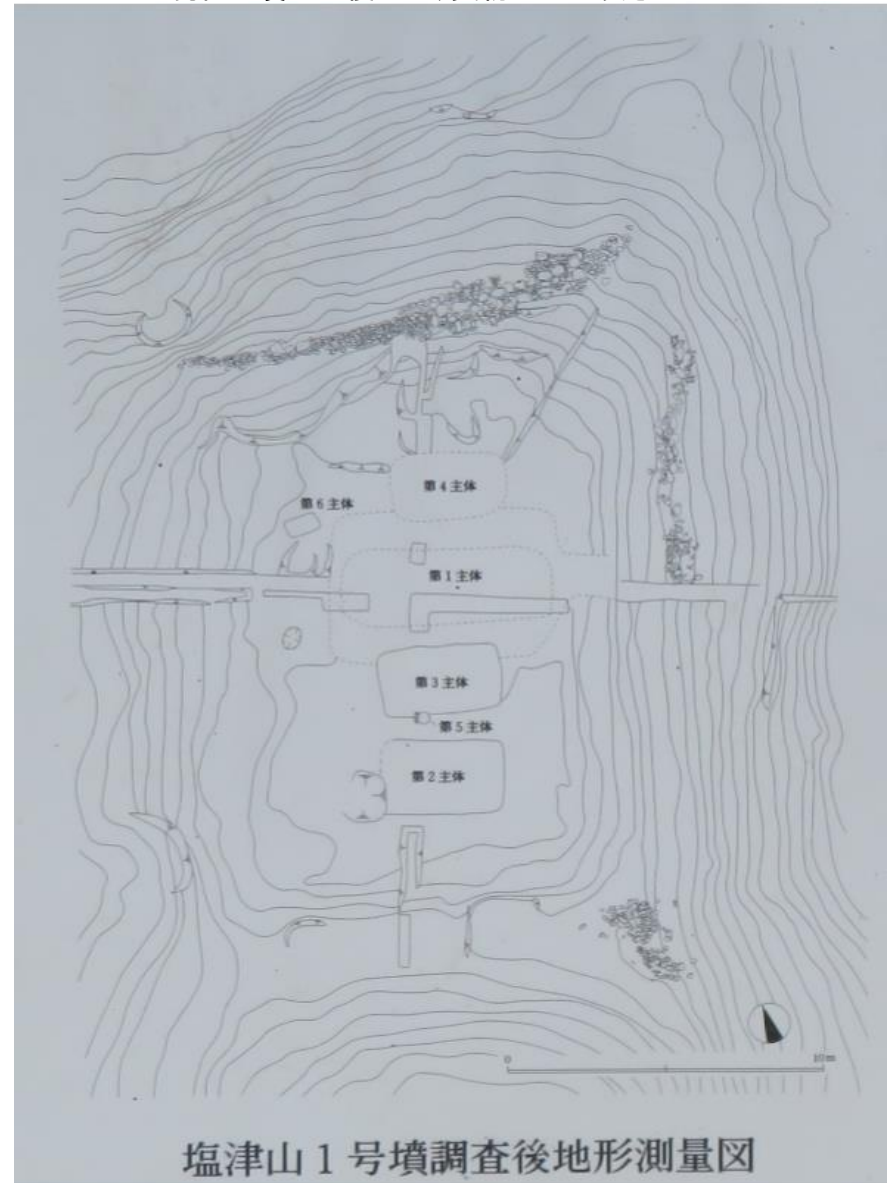
塩津山1号墳（上空から）



塩津山1号墳と安来平野



調査中の塩津山1号墳（北から）



# 1号墳には構造の異なる6基の埋葬施設があったと云う

## 1号墳 埋葬施設

1号墳には構造の異なる6基の埋葬施設がありました。第1埋葬施設には堅穴式石室と呼ばれるもので、墳丘頂上の地下深くに木棺を納めた石積みの施設を作っています。古墳時代前期においては最高級の埋葬施設で、1号墳はこの被葬者のために造られたもので、葬儀が終わった後、使った土器を埋葬施設の上に寄せ集めるのが古墳時代から続く出雲地域特有の風習で、この石室の上からも土器が多数出土しています。

第3埋葬施設は長さ3.2mの木棺を河原石と砂で覆ったものです。第4埋葬施設は未調査のため構造は不明です。第5埋葬施設は大型の甕を棺、高塚を蓋として使っています。第6埋葬施設は日常は使わない円筒状の土器を転用したもので、棺を土器に納めて土器を蓋として使っていました。



棺に使われた円筒状の土器



発掘調査時の第3埋葬施設（西から）



埋葬施設模式図



埋葬に伴う儀式復元図

右手を見ると向こう側にもマウンドがあるように見えるが、手前は元々の尾根を掘り込んだ部分で、こうして1号墳の墳丘を造り出しているらしい



ここが掘り込んだ部分



左手の1号墳側を見たところ



右手を見たところ/ここから見るとマウンドに見えてしまうが、そのレベルが元々の尾根



これはそのマウンドに見える所から1号墳方向を見たところ



## 1号墳 南東隅

1号墳は尾根を削って整えられていますが、南側は深さ2 m以上もの溝を掘って区画しています。東側の斜面から続く古墳の表面を飾る貼石は、この南東隅の部分まで確認されましたが、平野側から直接見えない西側と北側では確認されず、省略されたものと考えられます。裾では壺が1個出土しています。



発掘調査時の埋葬施設の様子（北から）



そこで振り返ると2号墳が見える



説明板が毀損して良く読み取れないが、古墳時代後期の円墳らしい

直径が約8mの円墳で、周りには幅2mの溝がめぐっています。溝の中央には約2mの円筒埴輪が立ち並んでいます。出土した遺物から、古墳時代後期に造られたと推定されます。



2号墳復元図

周溝が巡っていたようだ



そこで周囲をパノラマで見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



さて、ここは方墳の5号墳の辺りだが・・・



こちらはその奥の6号墳の辺りだが・・・/これは県内最大級の2基の四隅突出型墳丘墓の一つなのか・・・



さて、前方は塩津1号墓の辺りと思われるが・・・/これが県内最大級の2基の四隅突出型墳丘墓のもう一つなのか・・・



頂部には石造物が並んでいた





際は崖状になっている



崖を少し下りて、そこから見たところ





宮山墳墓群はこの丘陵上に所在する/説明板が立っている



この説明板も劣化していて良く読めない

## 宮山墳墓群 (神仲仙寺古墳群)

(安来市西条江町)

この丘陵上の遺跡は荒島地域で最も東にある墳墓群で、弥生時代後期末の四隅突出型墳に第1基や古墳時代後半の前方後方墳、第1基は中学校建設に伴い消滅など、6基からなっている。昭和49年(1974年)の発掘調査では、4号墓がほぼ完全な形を残す。四隅突出型墳に属することが明らかとなっている。

4号墓は突出部を含めると、南北長さ28.8m、東西長さ24.6mの規模をもち、平面形が正方形に近い。突出部は先端に向けて「しゃもじ形」に広がる形をしており、長さ7m、最大幅7mを測る。墳丘の斜面には貼石、裾には列石と敷石をう段、交互に施すなど、手の込んだつくりとなっている。中心となる埋葬施設は床面に砂を敷き、その上に長さ3.0m、幅1.0mの木棺を粘土で固定し、さらに厚さ30cmの砂でおおうという人骨なものである。棺内からは赤色顔料とともに、弥生時代のものとしては希な長さ68cmの長い大刀が出土している。

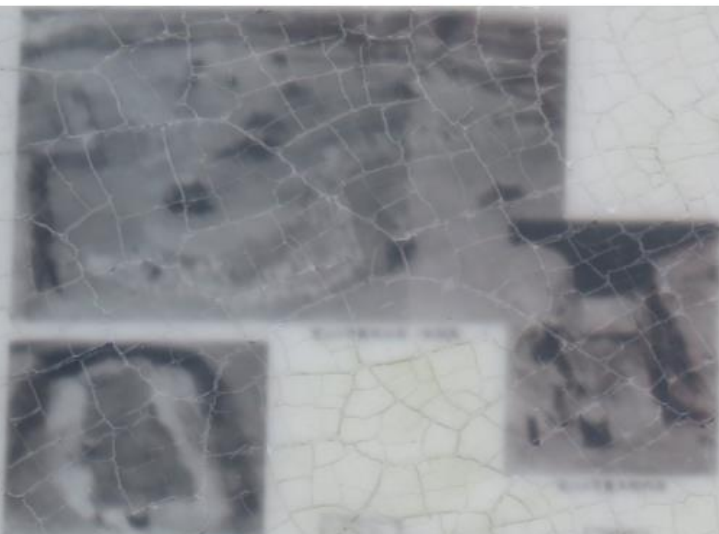
かつて安来第1中学校の南にあった1号墳は全長60mの前方後方墳で、5世紀後半以降に出雲東部に数多くつくられた前方後方墳の中では、最も古くかつ大型の古墳として注目されている。

このようにこの丘陵は弥生時代の終わり頃(約1700年前)と古墳時代の中頃(約1500年前)の2時期にわたって、このあたりを支配した首長墓域として利用されたものと考えられる。このあたり一帯には古墳時代を通じて大和政権の墳墓形式である前方後円墳がつくられた形跡がなく、出雲ひいては日本の古代史を語るうえで重要なかぎをもつ遺跡といえる。

昭和49年(1974年)11月23日発掘調査

平成12年(2000年)3月

島根県教育委員会  
安来市教育委員会



ここから登っていく



宮山墳墓群配置図



正面は3号墳/左手に4号墳が見える





3号墳から4号墳方向に見たところ



反対側で同じく3号墳から4号墳方向に見たところ



3号墳/6世紀前半頃築造の前方後方墳/後方部を見たところ



そこから前方部を見たところ/右端は4号墳



これは前方部から後方部を見たところ



そこで右手を見ると竪穴住居跡が見える



これは後方部の墳頂から背後を見たところで、前方には2号墳と1号墳(消滅/古墳時代中期に築造された、全長56mの出雲で2番目に大きい前方後方墳)があったようだ/1号墳は出雲に前方後方墳が流行する先駆けとなったと云う



さて、前方は4号墳/弥生時代後期に築かれた四隅突出型墳丘墓





## 荒島墳墓群

### 宮山墳墓群（史跡 仲仙寺古墳群宮山支群）

荒島墳墓群は弥生時代後期から奈良時代までの約五百年間、絶えることなく首長墓が築かれる全国的にも数少ない墳墓群です。ここ、宮山墳墓群は荒島墳墓群の東南に位置する支群であり、四隅突出型墳丘墓1基、前方後方墳2基、方墳2基、円墳1基、住居跡1棟からなる遺跡群です。

1号墳は古墳時代中期（千五百年前）に築造された、出雲地域で2番目に大きい前方後方墳で、全長は約56mありました。現在は消滅し、その場所には中学校が建っています。巨大な2段の墳丘の斜面には石が葺かれ、平坦な部分にはたくさんの円筒埴輪をめぐらせていました。この古墳の築造以降、出雲東部地域の首長たちは全国的に減少する前方後方墳を採用しました。このように、出雲の地域性を顕著に表した古墳といえます。

IV号墓は弥生時代後期（千七百年前）に築造された四隅突出型墳丘墓です。中央には遺体を納めた組み合わせ式木棺の痕跡が検出され、中から赤色顔料と大刀が出土しました。突出部も含めると30×23mを測り、中型の部類ですが、突出部が最も発達しシャモジのような形をしている点が注目されています。

四隅突出型墳丘墓は、全国各地で多様な葬送儀礼が行われる中、富山県から鳥根県西部や広島県北部までの首長層の墓として分布しており、コタツの隅が細長く突出したような墳丘が特徴です。東北地方から九州地方まで倭国として急速にまとまっていく激動の時代、日本海側のリーダーたちの交流を示す貴重な資料です。

平成24年3月

安来市教育委員会

年代	AD	
	弥生時代	古墳時代
荒島墳墓群の主な特徴として	<ul style="list-style-type: none"> <li>✕ 特殊な遺構が認められる</li> <li>✕ 弥生時代後期から古墳時代前期にかけての連続した遺構が認められる</li> <li>✕ 宮山IV号墓が築かれる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 出雲東部地域の首長層の墓として分布している</li> <li>■ 宮山I号墳が築かれる</li> <li>■ 出雲東部地域の首長層の墓として分布している</li> </ul>
日本の動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>弥生時代後期から古墳時代前期にかけての連続した遺構が認められる</li> <li>弥生時代後期から古墳時代前期にかけての連続した遺構が認められる</li> <li>弥生時代後期から古墳時代前期にかけての連続した遺構が認められる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>弥生時代後期から古墳時代前期にかけての連続した遺構が認められる</li> <li>弥生時代後期から古墳時代前期にかけての連続した遺構が認められる</li> <li>弥生時代後期から古墳時代前期にかけての連続した遺構が認められる</li> </ul>



四隅突出型墳丘墓1基(4号墳・Ⅳ号墓)、前方後方墳2基(1号墳、3号墳)、方墳2基(2号墳、6号墳)、円墳1基(5号墳)と竪穴住居跡1棟からなる遺跡群

## 荒島墳墓群

### 宮山墳墓群 (史跡 仲仙寺古墳群宮山支群)

荒島墳墓群は弥生時代後期から奈良時代までの約五百年間、絶えることなく首長墓が築かれる全国的にも数少ない墳墓群です。ここ、宮山墳墓群は荒島墳墓群の東南に位置する支群であり、四隅突出型墳丘墓1基、前方後方墳2基、方墳2基、円墳1基、住居跡1棟からなる遺跡群です。








1号墳は古墳時代中期(千五百年前)に築造された、出雲地域で2番目に大きい前方後方墳で、全長は約56mありました。現在は消滅し、その場所には中学校が建っています。巨大な2段の墳丘の斜面には石が葺かれ、平坦な部分にはたくさんの円筒埴輪をめぐらせていました。この古墳の築造以降、出雲東部地域の首長たちは全国的に減少する前方後方墳を採用します。このように、出雲の地域性を顕著に表した古墳といえます。

Ⅳ号墓は弥生時代後期(千七百年前)に築造された四隅突出型墳丘墓です。中央には遺体を納めた組み合わせ式木棺の痕跡が検出され、中から赤色顔料と大刀が出土しました。突出部も含めると30×23mを測り、中型の部類ですが、突出部が最も発達しシヤモジのような形をしている点が注目されています。

四隅突出型墳丘墓は、全国各地で多様な葬送儀礼が行われる中、富山県から島根県西部や広島県北部までの首長層の墓として分布しており、コタツの隅が細長く突出したような墳丘が特徴です。東北地方から九州地方まで倭国として急速にまとまっていく激動の時代、日本海側のリーダーたちの交流を示す貴重な資料です。

平成24年3月

安来市教育委員会

年代	AD 300			700		
	弥生時代		古墳時代	奈良時代		
荒島墳墓群の主なできごと	 仲仙寺墳墓群が築かれる  塩津山丘陵に大集落が営まれる	 宮山IV号墓が築かれる	 造山1号墳が築かれる	 宮山1号墳が築かれる	 造山2号墳が築かれる   塩津神社古墳が造られる	 中山墳墓(消滅)が築かれる
日本の動向	各地で独自の文化が栄える 青銅器を使った祭りが行われる	日本各地に戦乱が広がる 卑弥呼が中国(倭)に使いを送る	東北と九州が国としてまとまる	倭の五王が中国(宋)に使いを送る	聖徳太子が十七条憲法をつくる	奈良に大仏がつくられる

突出部から見た4号墳(IV号墓)

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



別の突出部から見たところ



左手の、復元された貼石部を見たところ



同じく右手の、復元された貼石部を見たところ



これは4号墳(IV号墓)の墳頂から1号墳方向を見たところ/墳頂に仕切り石がある





この仕切り石は主体部の場所を示すようだ



墳頂から突出部を見下ろしたところ [\(クリックしてビデオを見る\)](#)





ここから登っていく



もともと15基(8~10号墓の3基は四隅突出型墳丘墓、8基の方墳、4基の円墳)からなる墳墓群で、現在は2基(8~9号墓)の四隅突出型墳丘墓が保存整備されている/他は消滅したようだ

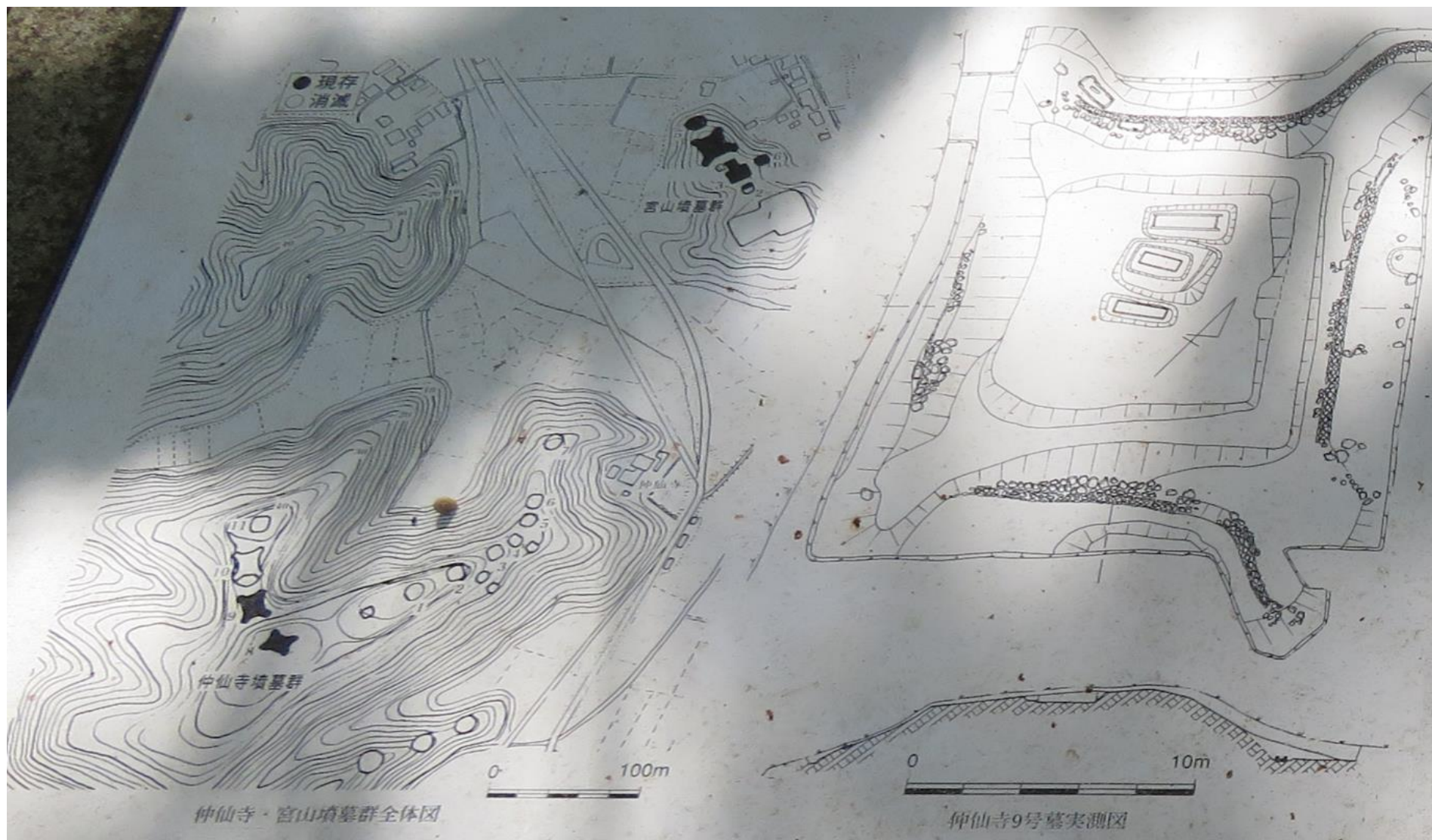
国指定史跡 仲仙寺墳墓群 (名譽) 仲仙寺古墳群 (安来市西赤江町)

この墳墓群は、周辺の団地造成以前は、北から北東方向に延びていた丘陵の最高所に位置し、15基の古墳・墳丘墓からなっていた。現在残るのはここにある2基の四隅突出型墳丘墓のみである。1970~1971年(昭和45~46年)の発掘調査から保存、指定に至るまでの経緯は、東方500mにある宮山墳墓群と合わせて、「四隅突出型古墳」の出土の特色ある歴史を制として全国的に著名にしたばかりではなく、文化財保護の貴重な歴史を語っている。

8号墓は未発掘のまま保存されている。内部構造等は不明だが、14×18m、高さ15mの四隅突出型墳丘墓と考えられる。9号墓は、突出部に箱形木棺322.5×27m、高さ3m、突出部の長さ6mの規模で、墳頂部に箱形木棺3基、墳裾部に箱形石棺3基が確認されている。中央の木棺内部からは碧玉製管玉1個、その墓穴上からは多数の土器が出土している。北と南に、墳頂部に木製管玉1基と石蓋土壘1基が発見されている。中央部2基の木棺内から碧玉製管玉が、墓穴上からは土器群が出土している。これら四隅突出型墳丘墓は発見当初は古い時期の「古墳」とされたが、その後の研究により、現在では古墳時代直前の弥生時代のものであると考えられている。なお、他の消滅した古墳は、一辺数mの方墳8基、円墳4基で、いずれも5世紀以降に築造されたものである。

昭和46年(1971年)8月12日指定  
平成12年(2000年)3月 島根県教育委員会  
安来市教育委員会





前方に墳丘が見えてくる



これが9号墓/弥生時代の終わり頃(3世紀)に築造された四隅突出型墳丘墓





墳頂部に3基の箱型木棺、墳裾部に3基の箱型石棺の埋葬施設があったと云う

# 国指定史跡 仲仙寺9号墓

弥生時代の終わり頃（3世紀）に  
築かれた四隅突出型墳丘墓

## 埋葬施設

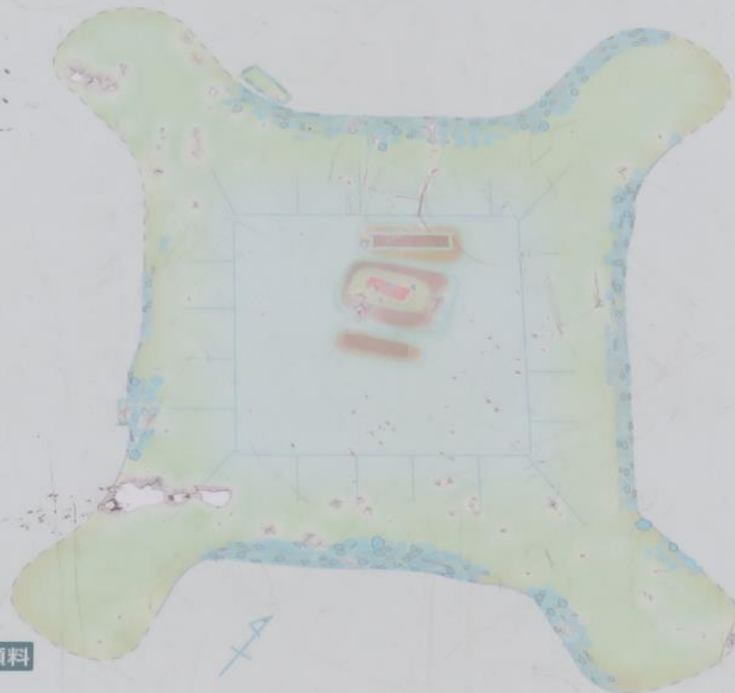
墓の上には遺骸を納めた埋葬施設が3基あり、  
中央の埋葬施設には中に木で作られた棺が置かれ、  
その上を砂で覆っていました。  
棺の中から碧玉製管玉11個と赤色顔料が出土  
しました。



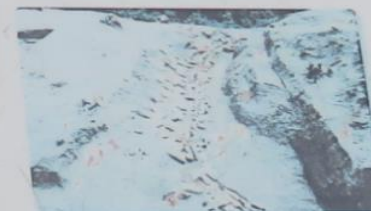
埋葬施設



管玉と赤色顔料



全景(南から)



貼石(北辺)



北東突出部

## 突出部

9号墓の突出部は、長さ約9mで先端がやや  
ふくらんだ形をしています。

墳丘の大きさ 18×15m  
27×22.5m (突出部を含む)  
高さ 3m

突出部から見上げたところ



こんな感じで突出部から突出部へ円弧を描いている



墳丘に登ったところ



主体部が仕切り石で表示されている



墳頂部に3基の主体部があったと云う



墳頂からは中海が見える

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



さて、この奥が8号墓の辺りと思われる





この辺りか・・・



これは仲仙寺墳墓群の所在する丘陵を南側から見たところ



## 参考ホームページ

<http://www.yasugi-kankou.com/index.php?view=5229>

<https://yomiagaeru.exblog.jp/23490314/>

<http://yasugi-arashima.com/shutsudo.html>

<http://onsen-man.cocolog-nifty.com/ryokou/2017/10/post-0371.html>

[https://blogs.yahoo.co.jp/itigonnusi/23119313.html?\\_vsp=5Y%2Bk5Luj5Ye66Zuy546L6Zm144Gu5LiY](https://blogs.yahoo.co.jp/itigonnusi/23119313.html?_vsp=5Y%2Bk5Luj5Ye66Zuy546L6Zm144Gu5LiY)

<http://ktrmj15.webcrow.jp/p32sm/tpx0908yasugi.htm>

[file:///C:/Users/u7231/AppData/Local/Packages/Microsoft.MicrosoftEdge\\_8wekyb3d8bbwe/TempState/Downloads/2417.1\\_塩津山1号墳が語る古代の出雲%20\(3\).pdf](file:///C:/Users/u7231/AppData/Local/Packages/Microsoft.MicrosoftEdge_8wekyb3d8bbwe/TempState/Downloads/2417.1_塩津山1号墳が語る古代の出雲%20(3).pdf)

<https://www.shoai.ne.jp/sanin/wagamachi/ooryonooka.htm>

[https://51601997.at.webry.info/201512/article\\_37.html](https://51601997.at.webry.info/201512/article_37.html)

<http://obito1.web.fc2.com/yasuginisi.html>

参 考

塩津山1号墳が語る古代の出雲/島根県教育委員会 より

